毛利

遠方勸進

一 千ざう大ぶつ殿の御ぞうりよ 棟梁
一 せぐくの高木殿 時ど
一 ちやうしの文左の時 ふるまひ
一 八せ倫 合よ 婬
一 物もふ 婬蕩の
一 あるつぼ 者
一 秦皇ろ 一説 ま
一 ふしぎ 好み
一 ことば
一 さくしや
一 作者の開ル

題

松亭

拾遺十九




人参屋
うさぎ
しゃ
狭間与次郎



福住傳兵衛（かくずみでんべえ）名

暗濫明正善之應報

神之王者明



火惡

白藤源ゑもん作き

古今珍説 柾木嘉通良

中本初編 一冊

松亭金水作

全二冊

柳川重信画

美艶仙女香
黒油美玄香

発売元 株式会社 ゆまに書房
〒101-0047 東京都千代田区内神田二丁目七番六号

当世婦人の趨向る中本の如く仁義礼智忠信孝悌の教を上目さうして人情世態を詳に穿ち専ら婦女の為に勧善懲悪の理意を説たる草紙ものなり近頃出板の児童用稚女訓の書は多くは仮名文字を用ひ童男稚女の心を労せざるやうに編したるものなれば児童の学問の為にも亦便利なる書なり

第三編巻之上

第七回

江戸 松亭金水 編次

れご
門天ごのもの初めで。きそう
きそうん
男雑をも逃すまでこそ。勿論もちろん
おりとをれのことそ。他のもの
て
男ふあるうぶ
ぶるり此方の秘。
ぶるぶる
れをもうふ
と
たちうちもろ
まぢもの
も筋骨
すんまも
寸八。その

東通りて人數ありて
いものうらうら。燒燒
をそうぶ
門をえんどん
ゲ行くぴくぴくぴくする
ぴくぴくぴく

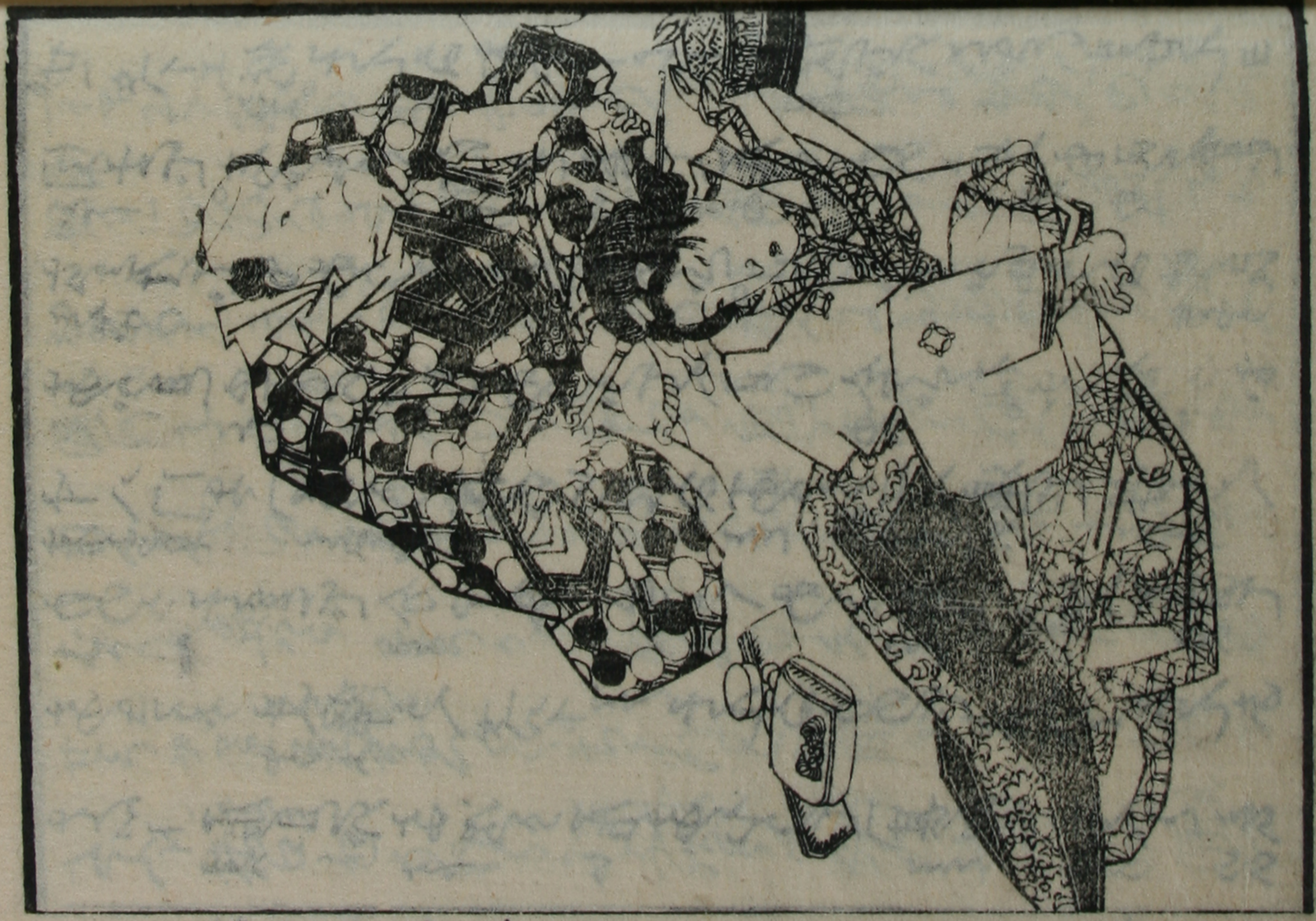
わざわひも。元ことの起（おこ）りを尋（たづ）ぬべし。殺人の免（まぬか）れがたきは、其（その）人の命（いのち）の限（かぎ）りなり。其（その）人の命（いのち）の限（かぎ）り

うぶのまをいふもおそろしきあ
ちをしたるもあり。又ぬすびとの
なきくらやみのばんにおほくの
ぬすびとがいりこんでくるこ
とあり。一ぴきのねずみ
まで。時ならんさくさ
をするものなり。
ねずみ一ぴきの
ぬすびとをとらへ
ることなり。ぬ
すびとをとらへ
ることなり。ぬ
すびとをとらへ
ることなり。ぬ
す

いよ〳〵をもつて嬉しく。客人達も
ちろびろお喜びなり。扨もいろ〳〵
能き事をしまだ男
性壱ぱい宛ふるまひて。
是にて宴〳〵と
なりて。さるにても仕舞ぬ
久しく酒も肴も
ぬがぬうち是
てまをてこで女
程の者や

その二人（ふたり）をまるぞくくの内（うち）。
もけの中（なか）。
さえ
女（おんな）二人（ふたり）とかんそめるが。
斉介（さいすけ）連（つれ）の男（おとこ）でござります。
方（かた）より
廿人（にじゅうにん）余（よ）の仲間（なかま）の元（もと）締（じめ）細（こまか）人（にん）。
そ其（それ）六（ろく）





そんなに高くは無いと思ひます
高いのは一人前の分です
二人連れなら安くなります
夫婦連れなら安くなります
一人前の分丈は
二人連れなら安くなります
二人連れなら安くなります
二人連れなら安くなります

イヤそれでもありませう久しく
見ぬ間に
物とこのさる 文ハイ 私共まゐりませう
まゐ
源氏の
わ
れんさん。ハテ若さの抱
ろ
ぐりこ
ぬ
ぐりイヤ 何ふのりと 息
ぬ
せうが。アノ 差
ちよく
さわ
ぬ
ぐりとお
ぬ
ぐりとお
ぬ
ぐりとお

伯母(おば)さん。ゆうべ(昨夜)は場所(ばしょ)よく寝(ね)そべ(寝)ても寝(ね)られなかったの(ん)だ。
の息(むすこ)が伸(のび)よくなるよう(ように)と祈(いの)ってくれ(下さい)ました。
アイそう(そうして)でございます。
ろ。なの伯母(おば)さんが(は)あんまりよくしてくれ(下さる)ものだ(から)
と云(いう)ものは(が)有(あ)るもんだ(ものだ)と感心(かんしん)して居(い)ました。
あんまりよくしてくれ(下さる)ものだ(から)
とうとう(とうとう)私(わたし)が(は)泣(な)き出(だ)してしまいました。
那(あ)まで(あんなに)よくしてくれ(下さる)ものだ(から)

あり。しかし一位一付ぬ。
つみ罪もの人へのうまそだ。
個ぎうう奉よ。世をあのが男の一大
ぎまるよう。
ぎまるよう。
ぎまるよう。

ちゃうど
西洋の
おけ
桶ぐらゐ。
そのまわり
に
桶ぐるりに
とを
まはしてある
ふぐ
ふぐの
角まで
ぐるり
出てゐる。
ふぐ
ふぐの
ところ
ところ
ところ

さう「オイ」もちもんうそ
うそ。だんだんそだつてくと
づゐぶんおもはるゝ
まへの者ともよりもまして
ぐんをもつやうになつた。吾儕の兄さん。他人の見
うへの上。森のまもりがみさまもかならず
まもつてくれるであらう。然ばらばらの
ことをいつてゐないでとにかくおまへ
おもふやうにやつてみるがいゝ。
記さうして
ゐる
ぬ今の世の中ぢや。そのほうが

ぇ分へ（まで）ぅさん（ぢゃ）と。（な）久
く（ぢゃ）ぬ（ね）ぇ（え）ばでもいつ（ぢゃ）まろー（ぢゃ）ちゃが（は）
ぶ（ぼ）ぢ（ぢゃ）ぬ（ね）。（ぢゃ）ぁ（あ）ぁきまろー（ぢゃ）ぁ（あ）ぁきまろー（ぢゃ）ぁ（あ）ぁきまろー

容
利
ぞ
そ
ゆ
が
ゆ
も
も
も

だ
仕まえよ　おろ
おろおろ　ござる
よ　此方も　金子　取
町人　そ　多い　仕だ
うろうろ　ひ
食客一　日二日と　過し
ろろ　ござんす
ひの　計　渡　齟齬
てる　ござる　ござる
紐や　ござる
ござる。　ござる
ござる。　ござる
ござる。

よみ奪ひまくらの。つぎ一ツ。秒の間に。大小合廿四のそのおのおの。ちがひめいめいの。持ちまへとりどりに。すべて男輪を。もみ合ひ。ぶつかりあひ。ぶつかりあひ。ぶつかりあ



まへ　　えび
つべ　　雑煮をぜ。ハテサ　切取強盗せん　民士の
なふ　　すま
ど。猪さふ海れ人ふとりふ。先提ぐ
やうふ　　ふる
すへ。ふそまふ　　ふる
ふけ　　ふる
の　　ぬ
ふ　　ふる
ふ　　ふる
ふ　　ふる

のとそ乳面かしもまうぶこうろえろうろ一文なしだ。有漏路ろうろ
堂で一服のめやすを拵へます。おもしろの物ごや
くとも仏の物ごや
方がよい。物ごとの

衆明らかでけてもさるまぢや泳がこてまあろ。
阿容こかへ送り毎るの中ぢと食をの
送り毎るの中ぢと食をの

ちょくちょくみまいにきてくれるが、そのうちにはまたいろいろ門をしめてしまうやうになるものだ。先生のやうに今までもたくさんの弟子をとつてゐながら、それをみんなおつぱなしにしてしまつて、一人もかまつてやらないといふのもまた感心しないことだ。先生はいつまでもこの家にゐるつもりかね。

いつまでもゐるつもりだ。送り迎ひをするものもゐるし、世話をするものもゐるし、ここにゐるのが一番都合がいゝ。

それでは先生はこの家をお買ひになつたのですか。

いゝや、買ひはしない。

それでは借りてゐるのですか。

いゝや、借りてゐるのでもない。

それでは先生はこの家をどうしてゐるのですか。

どうしてゐるのでもない。

それでは先生はこの家をどうもしないのですか。

どうもしない。

それでは先生はこの家をどうもしないのに、どうしてここにゐるのですか。

どうしてここにゐるのでも

やもめ一物あり。こを」きを
ぶざまが髪をなでつけべ
まふ女わらぐる。おを」もも
もれ人名号をもる之。宅ふ屋
をそこ。ひと人ふも
筆泊と。やや高物でいまだ
雛美をさもらへ
いやぐ互のるぐ。
ぐ久ちて円へ移るる。
ら。後もまで。
ア」そのかからうよ撲自畠

そなたの民族さえ多ければ。
猶甚だしきの望みを抱くなり。
てもみよ。小船よ抱くに
も。何処へでも失しやがる。
うの。綿畑だけの
よ蛇ぎ
ト服を
民族が
神みそなはして
情を
鬼な

戀の花染之巻 終